

## 2024年度賛助会へのお誘い

特定非営利活動法人 SAJA(NPO 法人サヤ)の目的にご賛同いただける方は、是非賛助会にご入会ください。当法人の目的は、在宅の精神障害者に対して、地域生活支援に関する事業を行い、併せて障害者の自立と社会経済活動への参加を図ることを通して、精神保健福祉の増進に寄与することです。主な事業は事業所ホームページ(tanpopo-saja.com)をご覧ください。ご入会いただいた方にはたんぼぼの機関紙「LIFE」(年2回)をお届けします。

賛助会年会費は 2,000 円です。何卒ご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

会費のお支払方法…①郵便振込(申し訳ありませんが、振込手数料のご負担をお願いします。)

口座番号：01680-5-57087

加入者名：特定非営利活動法人サヤ

②当事業所窓口にて支払い



福祉の店様より、ご寄附を頂きました。大切にに使わせていただきます。ありがとうございました。

### クラブハウス 活動報告

5月18日(土)に、新年会ぶりとなるクラブハウスを行いました。今回の活動内容はたこ焼きパーティです。買い出しチーム・会場準備チームに分かれて、いざ。総勢 11 名のクラブハウスメンバーが集まったので役割分担したら準備も片付けもあっという間です。2 台分のプレートで生地をくるくるくるくる…。油は多めがポイントだそうです。作業では見られないメンバーの意外な一面も出たりして、とても楽しく過ごしました。(精神保健福祉士 山崎春菜)

### 2024 年上半期 イベント報告

主任 小西靖代

2024 年も半年が過ぎ、様々なイベントに参加しています。初めに、5月12日(日)讃岐塩屋別院特別イベント法要、今回初めての参加で、丸亀市の社会福祉協議会からご紹介いただき、近隣ということもあり参加させていただきました。少し肌寒い時季でしたが、県外各地からたくさんの方がこられていました。このイベントで高知県から来られたお客さんから「クッキーが美味しかったので自分のお店にも置かせてほしい」と声をかけていただいて、新しい委託先としてお付き合いさせていただくことになりました。次に 5月26日(日)めろフェスは今回で 2 回目の出店です。お天気にも恵まれメンバーさんたちは学生ボランティアさんたちとも交流しながらクッキー、手作り雑貨を販売しました。6月9日(日)には、ふれあい城乾まつりに参加し、いつものクッキーや雑貨に加え、スーパーボールすくい、ヨーヨー釣りをしました。生憎の大雨でしたが、子どもたちには大雨も関係なかったようで、ワイワイと楽しそうにスーパーボールすくいやヨーヨー釣りを楽しんでいました。どのイベントもたくさんの方が、来場され交流ができたと思います。接客の得意なメンバーもたくさんいるため、イベントではメンバーの力が発揮できる場になっています。

とてもとても暑い夏がやってきました。恐ろしい程に気温と湿度が高いので、熱中症には十分気をつけて過ごしたいです。先日研修に参加させていただき、対人援助職を続けるにあたり、自分自身の身体と心のケアに取り組むことの大切さを学びました。そのためにはまず、自分の不調のサインに気付く必要があります。本当にいまさらですが自分を詳しく知る・客観視するって意外とできていない。ちなみにそれからは、もはやルーティンとなっているカフェインの摂り方を見直すことにしました。自分のために生活に変化をつけて取り組むって研究みたいで楽しいです。今のところ特別な変化はありませんが。(H.Y)

# LIFE

第 75 号 2024 年 8 月 15 日発行

特定非営利活動法人 SAJA (サヤ)  
就労継続支援 B 型事業所 たんぼぼ  
〒763-0066 丸亀市天満町 1-2-31  
TEL: 0877-22-2840  
HP tanpopo-saja.com

今年度も走ります！！

理事長 村井 誓子

日頃は NPO 法人 SAJA 就労継続支援 B 型事業所たんぼぼの諸活動に対しまして格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて NPO 法人 SAJA では毎年 3 月に理事会、5 月に理事会・総会を開催しています。今年度も事業計画に基づき 4 月から特定非営利活動に係る 4 つの事業を実施しています。

具体的には 1. 就労継続支援 B 型事業(たんぼぼ) 2. 普及啓発活動 3. 障害者福祉団体との交流及びネットワーク活動 4. 研修事業等です。まず就労継続支援 B 型事業では①相談援助、情報提供②就労の機会の提供③その他、日常生活上の具体的な支援を軸に、自主製品製作(クッキー、雑貨)・店舗運営(駄菓子屋)・軽作業(販売用新聞袋作り)・地域交流(地域イベントへの参加、販売)・生活相談・レクリエーション(日帰り旅行、歌芸大会等)・クラブハウス(利用者主体で活動している自助グループ活動)などを行なっています。次に普及啓発活動では機関誌「LIFE」を年 2 回発行しています。さらに、障害者福祉団体との交流及びネットワーク活動では、定例の関係者会を開催しています。研修事業では当事者研究ミーティングやインプロヴィゼーション(即興演劇)などを開催しています。

「たんぼぼ」は 1990 年丸亀市内において小規模作業所として家族、当事者、行政関係者、精神保健福祉士の協働で立ち上がりました。今年で 34 年になります。理念は、『働く場を提供することにより、利用者個々の社会参加を促し、安定した地域生活が維持できるように支援する。また、地域住民の方々との繋がりを重視し、地域社会に貢献するとともに、差別や偏見の是正を目指す』というものです。そしてスローガンは『誰もが主役の地域社会を目指して』とし、これらを念頭におきつつ、その事業体系を変えながら活動を続けています。

令和 6 年度に報酬改定があり、作業所時代から運営している私たちの要望とは別に、B 型事業所は成果主義の更なる強化がなされました。3 年に一度の報酬改定に翻弄されますが、その度に何のためにこの仕事をしているのか、周りからも厳しい言葉をいただきながら自分に問いかけ我に返る次第です。この変わる制度の中で続けていかなければなりませんので、決して大切にしていることを忘れずに目の前のことに取り組んでいく所存です。

『私達事業所は、障害を持つ利用者がごく当たり前の生活者として地域で暮らす際の資源の一つに過ぎない。「地域の中」で活動することと「地域の一部」として活動することは全く異なる。その人が大切にしている日々の「暮らし」を私達支援者の目線や価値、感覚で評価解釈しない。ともに働き、ともに過ごす日常の中で、その人がその人の人生の主人公であることを再認識できるような実践を続けていく。』(前理事長のひとりごとより抜粋)

これは私たちが大切にしていることの一部ですが今後もしっかりと自分自身を振り返りお互いに大切にしていることの確認をしつつ様々なことに挑戦していきたいと考えています。今後とも変わらぬ皆様のご支援とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



## 私が援助者でいいの？ ～信頼と安心を考える～



副理事長 西谷清美

対人援助を生業にしようとする、目の前の「その人」との信頼関係の確立が大切だとか、「その人」なりの安心で安全な生活を構築していくための支援のあり方だとかについて、多くの方は福祉専門職向けの本に書かれていることにしがたって、まずは援助を文字で理解することに努めます。しかし本来、最初にやるべきことは、自分が本当に援助者でよいのかという自分自身への問い合わせです。要するに、目の前の「その人」の援助者が私でよいのかという問いを立てることだと思います。

どうやれば信頼関係を確立できるのか、そもそも信頼とは何なのか、安心と安全は誰のものなのか等、次々に疑問が湧いてくるのが援助職に不可欠な要件だと思います。逆に、信頼は相手の話を傾聴して、受容と共感を大切にすればおのずとそこに立ち現れるなんて考えているとしたら、そのこと自体は間違いではありませんが、援助職への道は少しばかり遠くなりそうです。

困っている人、生活に課題を持つ人、障害をもつ人、認知症高齢者等を目の前にすると、その人のためにできることは何でも手伝おう、助けたい、力になりたい等、優しい気持ちや正義感からつい「その人」の意向や気持ち、好み等を考えずに行動してしまったりします。例えば、頼みもしないのに先回りして代弁したり、「その人」がやろうと思った矢先に援助者のやり方で行なったり、高齢を理由に肉料理を勝手にメニューから外したり、こどもだからできないと決めつけたり、数えれば切りがありません。援助者が援助者であるために、「その人」はいつまでも被援助者を演じなければならないとしたらどうでしょう。例えば、障害をもつ「その人」が健常者の思うところの正義を実行するための道具にされていたりしないでしょうか。

ここで援助者として決定的に欠けているのは、「その人」への信頼です。信頼関係の確立が大切だと言いながら、実は自分とは異なる生活体験や感情表現、異なる価値観をもつ「その人」を信じていないのです。信じていないから任せられない、信じていないから先回りをしてしまうのです。信頼とは、目の前の「その人」が援助者の想定外の行動(不確実性)をとるかもしれないということを承知し、信じて無条件に受け入れることです。つまり、人を信頼するとは、相手の自立性を尊重し、支配するのではなく、委ねたり、任せたり、譲ったりすることから始めなくてはならないということです。

一方、安心は「その人」が援助者の想定外の行動をとる可能性を全く意識することなく、相手の行動が援助者である自分の管理下に置かれている場合に、援助者の側の感情として生じます。この援助者が安心できる状態というのは、相手の自由が制限され、援助者の価値観や正義感の範疇で援助が組み立てられ展開されている場合です。対人援助は、援助者が自らの安心を得るための方策であってはならず、援助者には安心は誰のものなのかということを常に考えながら日々の援助活動に当たってほしいものです。

対人援助の専門職を目指すなら、これらのことを整理しておく必要があります。まずは、人を信頼する力を持つことが大切です。

はじめまして。2024年4月からパート勤務に入りました千秋香里(ちあき かおり)と申します。徳島生まれ徳島育ち、阿波踊りを踊れる人はだいたい友達、みそ汁にはすだちを入れます。美味しいので試してみてください。

四国学院大学で演劇を専攻し、卒業後も演劇をつづけています。2022年に『ダンテライオンズ』でたんぼぼの皆さんとお会いし、関わっていくうちに福祉職に興味を待ち、ご縁があり念願のたんぼぼで働かせていただくこととなりました。福祉の経験が浅いため、関係機関の皆様にご迷惑をおかけする場面もあるかと思いますが、経験を積み頑張っていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

## スタッフ自己紹介

## スタッフ自己紹介

初めまして。2024年3月に四国学院大学大学院を卒業し、4月から常勤スタッフとして勤務することになりました宮本雄太郎です。2023年度からアルバイトスタッフとして勤務しており、今年度で2年目となります。

私は、四国学院大学を卒業後、高知県にある精神科病院で精神保健福祉士として勤務し、相談支援室・グループホーム・デイケア・就労継続支援B型事業所を経験しました。これまでの実践を振り返り、学びを深めるために、12年間務めた職場を退職し、地元である香川県に戻り、大学院へ進学しました。

事業所での経験はあるものの、たんぼぼのように地域に根差した事業所で勤務することは初めてです。利用者とのかわり、業務を通して、専門職として成長していくと同時に、これまでの経験を活かして、勤務したいと考えております。

関係機関の皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



## 当事者研究

当事者研究は、2024年1月20日、3月16日、4月20日、6月15日の10時～12時に、四国学院大学教授であり副理事長の西谷氏主催で行いました。当事者研究では毎回参加した人が苦勞ネームをつけて苦勞を出し合い、そのうちの一つについて研究します。時には人の苦勞は自分の苦勞でもあることに気づき、解決するわけではないけれど皆で対話を重ねるうちに楽しい時間となり、最後には自分も少し研究してみようかという気持ちになるから不思議です。



インプロビゼーションは2024年3月23日、6月15日の13時半～15時、四国学院大学准教授であり理事の仙石先生主催で行いました。インプロビゼーションも参加した人とその場で楽しく色々な方法を使い即興でやりとりします。参加した後は、それぞれに様々な気づきがあり時々、新しい自分にも出会います。

とにかくどちらも笑いの絶えない時間を過ごすことができ毎回楽しみにしています。(理事長 村井誓子)

新型コロナウイルス感染症が流行している時は中止となっていた夏祭りが、昨年から再開され、今年も8月3日に無事開催される運びとなりました。当日は、四国学院大学から実習生1名とボランティア1名の参加があり、クッキー販売、スーパーボールすくい、ヨーヨー釣り、くじ引きを神社内で行いました。そして、駄菓子屋は、時間を変更して20時まで営業し、夏祭りに訪れた人たちも立ち寄りくださいました。

今年は、例年に無いほどの暑い気温が続いており、日中は熱中症に気をつけながら準備を進めました。祭りが始まると地域の人たちが多く参加され、子どもたちの喜ぶ顔を見ると、準備の疲れも吹き飛び、忙しくも楽しい時間になりました。

お客さんたちから、「始まるまで駄菓子屋に行こうか」「駄菓子屋に寄って帰ろう」という声や売れ行きを気にかけてお声掛けくださることがあり、地域の人たちから、たんぼぼが認識されていることを改めて実感することができました。(精神保健福祉士 宮本雄太郎)



## 天満天神社 三社祭り